

労務管理学ぶグループワーク

雇用就農資金事業説明会

大阪府農業会議は10月11日、大阪市内・J Aバンク大阪信連 事務センターで「雇用就農資金」(令和6年度第2回募集)

事業説明会及び研修会を開き、同事業で採択された8経営体の研修指導者及び研修生計16人が出席した。当日は、農業会議より事業実

施の留意点について説明。その後、特定社会保険労務士の橋本将詞氏による「労務管理と雇用就農者の育成強化」をテーマとした研修とグループワークを

実施した。あわせて、NOSA I大阪より収入保険制度について、農業会議より農業者年金制度についての説明も行った。(沼田)

「月まで走れ!!」

この言葉を久しぶりに思い出しました。

この言葉を最初に言ったのは、私の恩師で社会科の教師でありサッカー部の監督です。当時、大阪の高校サッカー界では有名な方でした。社会人になってからも30年以上お付き合いをさせて頂き、私の仲間も引き受けて頂きました。



スポーツ×農業

×教育×地球環境

全国農業協同組合連合会大阪府本部

府本部長 松村 豊

「月までの距離を練習や試合で走らなければ、弱いチームは強くなれない」と言うところからきている言葉らしいです。

スポーツは根性・・・昭和ですね(笑) この思いは、のちに後輩にも脈々と受け継がれ、全国大会に大阪代表として出場し国立競技場まで勝ち進んで行きました。激闘の末、青森山田高校に準決勝で敗れはしまし

還暦を迎えて思う食事の大切さ

自分も恩師が亡くなった同じ60歳の還暦を迎えて思うことがあります。

成長期の中高校生や大学生にとって、アスリートでなくとも質のいい食事は本当に大切です。食事の質を左右するのは、お米をはじめ国産の安全で新鮮な農畜産物です。

「スポーツ×農業

×教育×地球環境

まさにもその話は、現在、J Aグループ大阪と大阪農業振興サポートセンターがJリーグのPRを担う若手選手と取り組んでいる大阪産のお米作りの活動です。私はその活動を見たり聞いたりするたびに亡くなった大好きな恩師の事を懐かしく思い出しています。

農業が身近にあることで都市住民の農業やJ Aに対する理解も深まり、地域の活性化にも繋がっています。スポーツを通じて多くのアスリートが日本の農業、国産の安全で新鮮な食べ物大切さを紹介しています。その活動がJ Aグループを中心にもっと広がっていかば若者が農業に興味を持ち、活性化につながっていくのではないのでしょうか。

私は学生時代よく練習の前におにぎりを食べていました。冷めてもとても美味しかった。もちろん、うちの田んぼでとれた「大阪のお米」です。食べなければ毎日走れなかったし頑張れなかったと思います。

最近では、柔道のメダリストやプロ野球選手、様々なスポーツ選手が引退後の新しいキャリアとして「農業」を選択し取り組んでいます。若者の農業に対する考え方も、儲けからきつないイメージから少しは変わってきたのではないのでしょうか。

◇筆者の紹介(まつむら ゆたか)

昭和39年生まれ。大阪府高槻市在住。関西大学社会学部卒業。昭和62年大阪府経済連入会。平成13年全農との組織統合後、農住施設部門において、時代の変化に応じた事業を展開。令和6年、府本部長に就任。「人の繋がり」を重視し、共通目的を掲げた組織づくりと人材づくりを目指す。